

お客さまとともに  
豊かな未来をつくる。

対応するSDGs目標

8 働きがいも  
経済成長も

9 産業と技術革新の  
基盤をつくらう

12 つくる責任  
つかう責任

事業性評価を通じてお客さまと経営課題を共有した上で、その解決に向け、融資や各種ファンドによる資金面のご支援、多様なソリューションを提供しています。また、地域社会の一員として社会貢献につながる行事への参加や地域交流などを行っています。

潜在ニーズの発掘と最適なサービスのご提供

FinTech～TSUBASAアライアンスによる連携～

フィンテック  
(FinTech)とは?

金融 (Finance) と技術 (Technology) を組み合わせた造語で、人工知能やビッグデータの活用、モバイル決済等、IT技術を駆使した金融サービスです。当行は、フィンテックの取り組みを通じ、より利便性の高い商品・サービスの提供に努めています。

TSUBASAアライアンス

地銀広域連携の枠組みである「TSUBASA アライアンス※」に参加し、協調融資や顧客相互紹介による連携のほか、AIや生体認証技術の研究など、フィンテック分野の連携を強化しています。

※TSUBASAアライアンス参加行はP5参照

キャッシュレス決済の推進

「TSUBASA FinTech共通基盤※」によるAPI※とスマートフォン等によるQRコード決済の仕組みを組み合わせた独自のキャッシュレス決済を提供するため、2019年1月から、株式会社セコマ、株式会社インファーマシーズ、株式会社エムティーアイと共同で、新たなキャッシュレス決済の実証実験を大通ビッセにて開始しました。実証実験では、株式会社エムティーアイが提供するアプリ「&Pay」を用いて利用者口座からの決済代金の即時引き落とし、および加盟店への決済代金の翌日入金を行うなど、利用者と加盟店双方にとっての利便性向上を目指しています。

また、2019年4月より、株式会社みずほ銀行が主導し、全国で約60行の金融機関が参画するスマホ決済サービス「J-Coin Pay※」との口座連携サービスおよび加盟店募集・管理業務を開始しました。

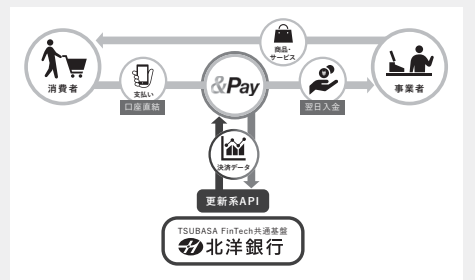
※TSUBASA FinTech共通基盤…  
TSUBASAアライアンス参加行とT&Iイノベーションセンター株式会社が共同で構築したフィンテックのプラットフォームです。

※API…  
お客さまの同意に基づいて銀行等のシステムに外部から接続し情報を取得できるようにする仕組みで、お客さまは事前に「ほくようID」という共通IDを作成いただくことで、口座情報などを様々なサービスと安全に連携することが可能になります。

※J-Coin Pay…  
みずほ銀行が提供するQRコードを活用したスマホ決済サービス。銀行系デジタル通貨として、当行を含む約60行の金融機関が口座連携などを行っています。



実証実験開始記念セレモニー



「&Pay」の仕組み

ほくようスマート通帳

2019年2月より、従来の紙の通帳に替わり、お客さまのスマートフォンにダウンロードしたアプリで口座残高や入出金明細を24時間リアルタイムで照会できる「ほくようスマート通帳」の提供を開始しました。「ほくようスマート通帳」は、「TSUBASA FinTech 共通基盤」によるAPIを活用するとともに、スマートフォンの生体認証にも対応し、インターネットバンキング契約のないお客さまでも安心・便利にご利用いただけます。

また、紙の通帳が発行されなくなることを通じて、森林資源等の環境保全にも貢献いただくことができます。

ホーム画面では、口座残高と最新の明細が表示されます。

通帳デザインを変更することができます。(10種類)

通帳画像をタップして横画面にすると、紙の通帳のように表示されます。

特集  
お客さまとの  
共通価値の創造  
環境保全  
医療福祉  
教育文化  
ダイバーシティ  
経営について



## お客さまの多様なニーズに最適なサービスを

### 上光証券は「北洋証券」となりました

銀行と証券会社の連携による商品ラインナップの拡充や相談窓口のワンストップ化などを通じて、お客さまの多様なニーズに最適なサービスでお応えするため、2018年10月、株式交換により上光証券株式会社を完全子会社としました。また、北洋銀行グループとしての一体感・認知度をより高め、銀証連携の本格稼働を図るため、2019年4月に社名を「北洋証券株式会社」に変更しました。商品ラインナップの拡充等のほか、北洋銀行と北洋証券の共催によるお客さま向けセミナーも開催しています。



## 銀証共同店舗の設置

2018年10月に上光証券(現北洋証券)本店営業部と北洋銀行札幌駅南口支店の銀証共同店舗1号店を開設しました。また、2019年4月には北洋銀行豊平支店1階に北洋証券豊平支店を開設し、グループとして初の本格的な銀証共同店舗が誕生しました。さらに、北洋銀行旭川中央支店1階に北洋証券旭川支店の応接ブースを設置しました。ご来店されるお客さまの多い銀行店舗の一角に証券会社の店舗を置くことで相談窓口のワンストップ化を図り、お客さまの多様なニーズに対し、最適なサービスでお応えしています。



北洋証券豊平支店

### 北洋ほけんプラザの拡充

ほけんの窓口グループ株式会社との業務提携に基づく「ほけんの窓口@北洋銀行」2号店となる『北洋ほけんプラザ琴似』を、当行の琴似中央支店1階に開設しました。2017年7月には本店営業部2階に1号店である『北洋ほけんプラザ大通』を開設しています。北洋ほけんプラザでは、平日のご来店が難しいお客さまからのご相談にお応えするため、土日営業を行っており、専門スタッフが豊富な商品ラインナップの中から、お客さまのニーズやライフプランに応じた最適な商品をご案内しています。



北洋ほけんプラザ琴似



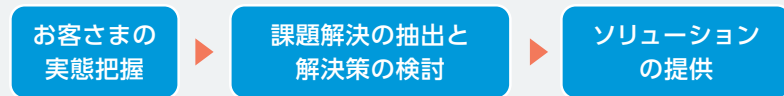
北洋ほけんプラザ大通

# 事業性評価と地方創生の取り組み強化

## 事業性評価への取り組み

定量的な財務資料のみならず、お客さまの事業内容、お取り扱い商品(技術・サービス)、業界環境等の強み・弱みを的確に分析し、企業の成長の可能性や持続性などを評価する事業性評価に積極的に取り組んでいます。融資部に設置した事業性評価グループを中心に、営業店と本部が連携してお客さまと経営課題を共有し、課題解決に向けたソリューションを提供しています。

### 【事業性評価の流れ】



### 【事業性評価による対話先数】

2017年3月	2018年3月	2019年3月
875	2,761	4,137

### 北海道共創パートナーズへの資本参加

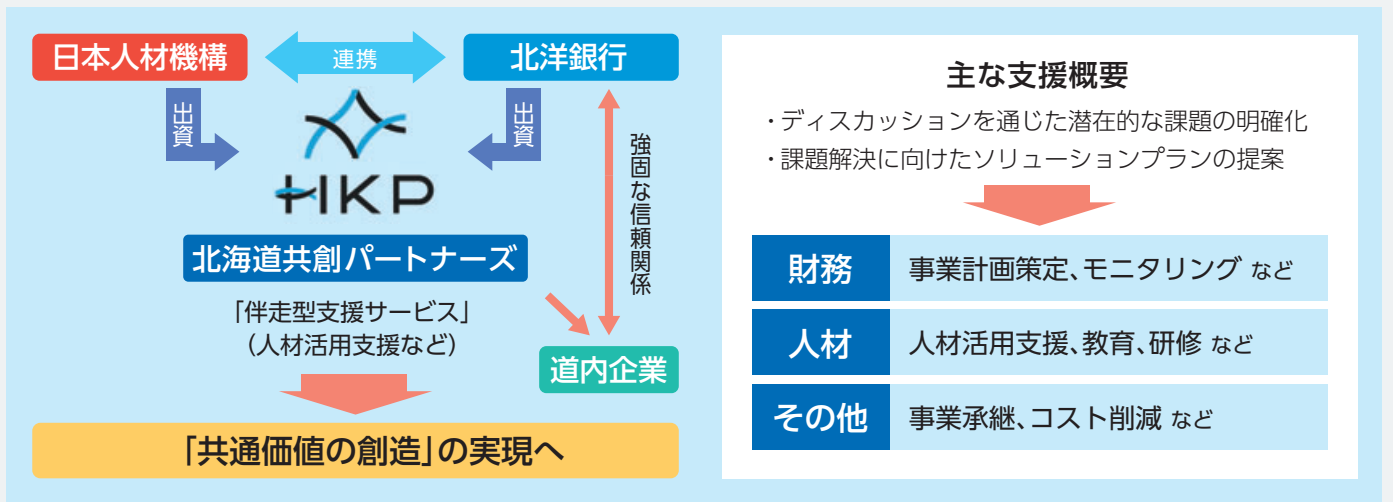
お客さまの課題解決のための人材・ノウハウ不足を補うため2017年11月より株式会社日本人材機構の子会社である株式会社北海道共創パートナーズに資本参加し、人材紹介などの伴走型支援サービスを提供しています。

この取り組みにより、道内企業の持続的・自律的な発展を支援することで、地域・お客さまとともに成長するための「共通価値の創造」の実現を目指します。



北洋大通センターでの記者会見

### 【事業性評価を踏まえたお客さまニーズへの対応例】



特集  
お客さまとの共通価値の創造  
環境保全  
医療福祉  
教育文化  
ダイバーシティ  
経営について



## ILO産業分析と地域中核産業分析

### ILO産業分析とは

地方公共団体が保有する税務データから、地域産業の実態を把握する独自の産業分析手法。当行とルートエフ株式会社、株式会社北海道二十一世紀総合研究所の3社が共同で構築しました。

### ILO産業分析を活用したお土産開発支援

札幌市のILO産業分析結果である「食品製造業の付加価値向上」の具体化に向け、札幌市・北海道大学と連携し、外国人観光客向けのお土産品開発の支援に取り組んでいます。2018年11月に開催された「SAPPORO おみやげパワーアップフェア in 北大」では、札幌市「観光商材開発支援事業」の採択を受けた企業が新商品の展示・試食会を行い、北海道大学の留学生を中心とした外国人参加者を対象に、テストマーケティングを実施しました。



SAPPOROおみやげパワーアップフェア in 北大



アンケート収集によるテストマーケティング

### RESASと金融機関データを融合させた地域中核産業分析

地域中核産業分析とは、当行と北海道経済産業局が共同で開発した、政府の運用するビッグデータ「地域経済分析システム (RESAS)」に、当行のお取引先企業の財務データを掛け合わせた独自の分析モデルです。RESASにより道内各地の中核産業を抽出し、当行のお取引先企業の財務データを用いて同産業の収益性や投資力などの分析を行った上で、各地域の産業・企業の「稼ぐ力」の強化に向けた取り組みを提案しています。道内有数の観光地である洞爺湖周辺地域の宿泊業の「稼ぐ力」強化に向けたワークショップなどを開催しており、これらの取り組みが北海道経済の活性化や産業の発展へ大きく貢献したとされ、2018年6月に経済産業局長より感謝状が授与されました。

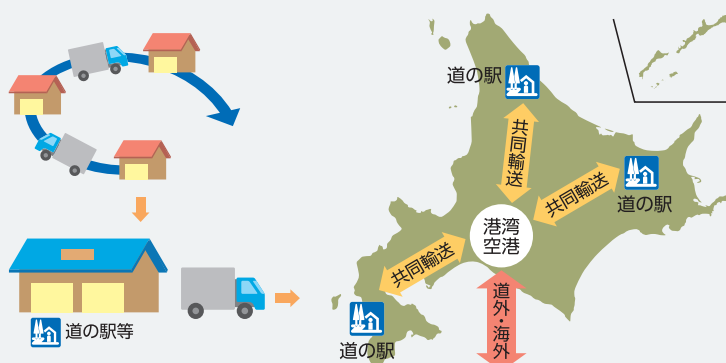


感謝状贈呈式

## 「道の駅」等を活用した地域連携物流システム

北海道の強みを支える一次産業の生産地域は、主に地方部に分布しています。今、人口減少やトラックドライバーの減少等により、地方部の物流コストが上昇し、生産地域を支える人々の生活や経済活動が脅かされています。

こうした問題を解決すべく、当行は、「道の駅」等を活用した共同輸送による物流の効率化とコスト圧縮を目指しています。



## 公立大学法人公立はこだて未来大学との包括連携協定締結

2018年10月、地域経済の一層の活性化ならびに自立的発展に資することを目的として、公立大学法人公立はこだて未来大学と包括的な連携協定を締結しました。今後も連携活動を充実させ、両者の相互発展および地域の発展を目指します。



包括連携協定調印式

# 中小企業の経営支援の取り組み

## 創造・新規開拓事業の支援

### 北洋SDGs推進ファンド

当行と株式会社北海道二十一世紀総合研究所は、SDGsに取り組む道内企業の支援を通じて、「北海道の持続可能な発展」への貢献を目的に、「北洋SDGs推進ファンド」を2018年6月に設立しました。北海道の重要課題かつ持続可能な発展に向けて不可欠な「起業・創業」をSDGsの第一義的テーマとして、産学官で連携し、出資の形態で支援しています。

累計11社  
1億2,900万円出資  
(2019年3月末)

### 出資先事例(採血を不要とした血中脂質計測器)

北海道大学発認定ベンチャー企業により開発された、採血を不要とした血中脂質計測器です。「予防医療」に利用されることが想定され、将来的には医療費の削減につながる取り組みとして今後の成長が期待されています。

#### 従来の採血による血中脂質計測



- ① 手技・費用・法規制により閉ざされた世界
- ② 採血箇所が限定されており、日々の採血が必要な場合、患者の負担が大きい



#### 採血不要の血中脂質計測



- ① 採血が不要なため、継続的に計測が可能
- ② いつでも計測が可能のため、脂質疾患の見逃しリスクが低減
- ③ 患者の負担が小さい

## 道産食材・食品の国内販路拡大を支援

### インフォメーションバザール

北海道の食品を首都圏に向けて紹介し、首都圏市場における販売ルートの開拓や販路拡大を目指す首都圏最大規模の道産食品展示商談会です。2018年9月に東京都にて開催した「インフォメーションバザール in Tokyo 2018」では、これまでの「地域コーナー」に加え、道内16のJAが一堂に会する「JAコーナー」を新設したほか、インフォメーションバザール初となる調理実演を行い北海道産食品を使用したメニュー提案をするなど、北海道の一次産業の魅力をPRしました。



インフォメーションバザール in Tokyo 2018



調理実演の様子

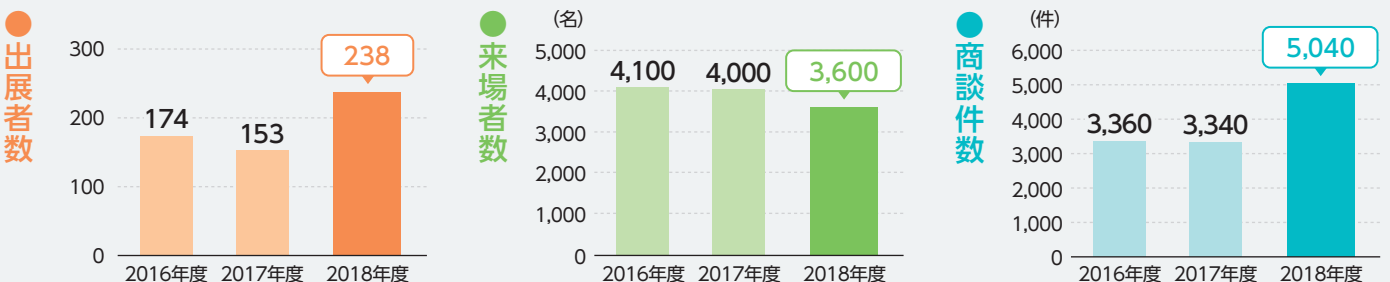
### 担当者からの一言



調査役 晴山 雄祐

北海道胆振東部地震の発生直後でしたが、無事開催することができました。インフォメーションバザールは、北海道にある豊富な一次産品や加工品の新たな販路開拓の場として多くのお客さまにご参加いただいています。これからの北海道の活性化には、地域の皆さまとともに、共通する価値の創造を目指すことが重要と考えています。農林水産業についても思いは同じで、農業・林業・水産業を営むお客さまとの連携が不可欠です。今後も、北海道の発展に貢献してまいります。

### 開催状況 (インフォメーションバザール in Tokyo)



特集

お客さまとの  
共通価値の創造

環境保全

医療福祉

教育文化

ダイバーシティ

経営について



## 観光分野への支援

### 大通観光プロモーション

2011年から北海道と連携し、道内各地の自治体等が地元をPRする場として北洋大通センターの1階スペースを無償で提供しています。魅力的な観光資源やイベントをPRする場を提供することにより、観光客誘致や地域振興に積極的に取り組む自治体等を支援しています。

2018年度 | 21団体が大通観光プロモーションを実施



大通観光プロモーション(美深町)

## 道内の優れた技術や製品の販路拡大を支援

### ものづくりテクノフェア

北洋銀行ものづくりテクノフェアでは、優れた技術や製品を有する中小企業・大学・支援機関等が一堂に会する場を提供し、地域のものづくり企業の販路拡大や企業間連携の促進、情報交換や技術交流を通じて、地域産業の磨き上げをサポートしています。2018年7月開催の「ものづくりテクノフェア2018」では、北海道命名150年を記念し、生産性向上につながるロボットの展示や、道内大学・企業による最先端のAI研究などを紹介する「北海道ものづくりゾーン」を設置しました。出展社と来場者との商談専用ブースでは、約1,250件の活発な商談が行われました。

2018年度

238社・団体がご出展、  
約4,800名がご来場



ものづくりテクノフェア2018

## ファンドで地域を応援

有望な技術をもつベンチャー企業や海外進出志向のある企業及び農林漁業分野の企業等が成功するためには、融資での資金援助だけでなく、ファンド等を通じた資本力増強と信用補完が効果的です。当行は、通常の融資に加え、企業のニーズに応じた各種ファンドを用意し、企業の事業展開をサポートしています。

### 2018年度活用状況

- 北洋イノベーションファンド
- 北洋6次産業化応援ファンド
- 北洋農業応援ファンド
- 北海道成長企業応援ファンド
- 北洋ライフサイエンスサポートファンド
- 北洋銀行ドリーム基金
- 北洋SDGs推進ファンド

支援先数  
合計27件

### Pick up!

#### 北洋銀行ドリーム基金

当基金は、北海道の中小企業が行う新技術・新製品の研究開発に対して助成を行い、道内企業の振興と企業の育成を通して北海道経済の発展と産業構造の改善に寄与することを目的としています。2018年度は全道各地から36件の応募をいただき、その中の10先へ100万円ずつ助成金を贈呈しました。1989年の基金設立以来、助成実績は161先1億6,100万円となります。



北洋銀行ドリーム基金2018年度助成金贈呈式





## お客さまから感動していただける 応対に向けて～CS～

お客さまが満足され、感動していただける応対に向けて、全店で「CS委員会」を開催し、「お客さま第一主義」の徹底とサービス品質の向上を図っています。また、外部調査機関による覆面調査等を継続的に実施し、金融サービス業に必要な接客スキル向上に努めています。

## それぞれの地域で社会貢献

地域社会の一員として、社会貢献に繋がる行事への参加や地域交流など、全店を挙げて役職員がCSR活動への取り組みを行っています。

### 地域イベント・お祭り行事への参加

役職員参加人数 ..... **179名**

地域貢献への取り組みの一環として、役職員が地域のお祭り等の行事に参加しているほか、各種イベントの運営にも積極的に協力しています。



お祭りの運営協力(豊平支店)



[えべつやきもの市]参加(江別中央支店)

### 地域の緑化・清掃活動

役職員参加人数 ..... **68名**

きれいな街づくりを目指し、地元の振興会や町内会が開催する緑化・清掃活動等に多くの当行職員が参加し、地域の美化活動に積極的に取り組んでいます。



ツツジ花殻摘み(遠軽支店)

### 地域交流 ～店頭ロビーなどの活用～

店頭ロビー等が地域の情報発信・文化交流の場となるよう、お客さまや地域の子どもたちによる作品を展示するロビー展を実施しているほか、環境や医療をテーマとしたお客さまに役立つ情報をご提供するパネル展などを開催しています。



北海道情報大学が行う「認知機能・臨床検査」セミナー  
(北洋大通センター)



地元学生の絵画展示(真駒内中央支店)